

事業名称	えひめ「対話型授業」アウトリーチプロジェクト		
実行委員会	愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会		
中核館	愛媛県美術館		
	住所	〒790-0007 愛媛県松山市堀之内	
	TEL	089-932-0010	FAX 089-932-0511
	ホームページ	https://ehime-art.jp/	
構成団体	愛媛県美術館、愛媛県教育委員会義務教育課、愛媛県教育委員会文化財保護課、愛媛県総合科学博物館学芸課、愛媛県歴史文化博物館学芸課及び西条市立神戸小学校、西条市立周布小学校、愛媛大学教育学部附属小学校、松山市立桑原小学校、松前町立松前小学校、松前町立北伊予小学校、伊方町立三崎中学校、西予市立多田小学校、西予市立宇和中学校、宇和島市立明倫小学校、高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校組合立篠山中学校、愛南町立一本松中学校		
事業開始時点の課題分析	<p>四か年に渡った本プロジェクトの最終年度となる平成 30 年度は、これまで培ってきた知見を全県・全国に還元するため、次の 3 つのアウトリーチ活動を柱に尽力したい。具体的には①美術館・博物館で開発された「対話型授業」を希望校・館で実施普及する出前授業の開催、②更に東予・中予・南予の愛媛県内 3 地域での教員・学芸員を対象とした「対話型授業」の実践とコミュニティ作りのための研修会の開催、③そして最後により多くの教員・学芸員への普及を目的とした「対話型授業」理論・実践テキスト刊行の 3 柱を総仕上げの活動として位置づけたい。なお 3 つ目の実践テキストには「対話型授業」で使われる基本の質問「どこからそう思う？」の効果についての調査・分析結果も掲載し「対話型授業」普及・啓発への説得性をより促進させたい。そしてこれをもって、本事業を完了したい。</p>		
事業目的	<p>これまでの積み上げと上記の課題から、当実行委員会では本事業の向かう方向が、①愛媛県内の美術館・博物館が「対話型授業」を共通のテーマとして、各々の持つ特色ある資源を活用して連携し、②地域（小中学校）の課題である次期学習指導要領の大きなポイントである「主体的・対話的で深い学び」に、地域（小中学校）と協働で取り組み、主体的に考え続けていくことが、ひいては愛媛の将来的な「文化創造」「まちづくり」とそれに携わる「人づくり」に十分に貢献できると考える。そのため 30 年度事業の目的を 2020 年から開始される新学習指導要領「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた美術館・博物館の学芸員と教員との協働による全県的な普及・啓発を行うアウトリーチ活動の年と定めたい。ここではこれまでのプロジェクトで得てきた知見を①美術館・博物館で開発された「対話型授業」を希望校・館で公開・普及し、更に②県内 3 地域、東予・中予・南予での教員・学芸員を対象とした「対話型授業」の実践と「コミュニティ作り」のための研修会を開催し次年度以降の持続可能な体制づくりを行い、③そして最後に、より多くの教員・学芸員への普及を目的とする「対話型授業」理論・実践テキスト（実テキストには「対話型授業」で使われる基本の質問「どこからそう思う？」の効果についての調査・分析結果も掲載し「対話型授業」普及・啓発への説得性をより促進させる）を刊行し県内外に成果を還元したい。</p>		

事業概要	<p>平成 30 年度は、最終段階として①美術館・博物館で開発された「対話型授業」を県内希望校・館で実施普及するための出前授業の開催、②更に東・中・南予の愛媛県内 3 地域での教員・学芸員を対象とした「対話型授業」の実践と次年度以降も主体的に授業を実践・継続していくための「コミュニティ作り」のための研修会の開催、③そして最後に県内外のより多くの教員・学芸員への普及を目的とした「対話型授業」実践テキストの刊行の 3 つの柱を総仕上げのアウトリーチ活動として位置づけたい。なお 3 つ目のテキストには「対話型授業」で使われる基本の質問「どこからそう思う？」の効果についての調査・分析結果も掲載し「対話型授業」の普及・啓発への説得性をより増進させ、本事業を完了したい。</p> <p>最後に本プロジェクトで得られる多くの知見は、微力ながら今後の美術館・博物館活動の参考になるのではと考えている。そのため叶うならば、事業完了後、平成 31 年度に京都にて開催される ICOM（国際博物館会議）において事例報告を行いたい。そして翌年の平成 32 年度（新学習指導要領開始の年）以降は美術館・博物館の真骨頂である展覧会への展開を図る等、更なる普及・啓発に努めていきたい。</p>
区分	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 <input type="checkbox"/> イ ユニークベニューの促進 <input type="checkbox"/> ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/> エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 <input type="checkbox"/> イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 <input type="checkbox"/> ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 <input type="checkbox"/> エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 <input type="checkbox"/> イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発
実施項目 ・ 実施体系	<p>1. 博物館・学校教育との連携による「対話型授業」アウトリーチ活動</p> <p>(1) 博物館・小中学校と連携した「対話型授業」のナビゲーターと将来的な文化・芸術への理解者・創造者の育成</p> <p>①美術館・博物館で開発された「対話型授業」の県内小中学校出前授業活動（博学連携の「対話型授業」県内出前授業）（普及・調査）</p> <p>②東・中・南予の、県内 3 地域での「対話型授業コミュニティ」作りのための研修会（普及・研修）</p> <p>2. 「対話型授業」をテーマにしたより広範囲のアウトリーチ活動のための環境整備</p> <p>(1) 博物館・学校教育との連携による「対話型授業」のテキストの刊行に向けた環境整備</p> <p>①「対話型授業」実践テキスト編集会議（編集会議）</p> <p>②「対話型授業」に掛かる「問いかけ」の比較分析・効果調査（調査・研究）</p>

<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業による成果・効果は次のとおりである。</p> <p>まず、①愛媛県美術館・愛媛県歴史文化博物館・愛媛県総合科学博物館で開発した「対話型授業」を県内希望小中学校に出前授業の形を用いて実施し（計 34 授業）、次期学習指導要領の目指す授業モデルとしての普及を図った。そして現在これら出前授業を行った学校を中心に新年度からも継続して出前授業実施と授業の実施方法についての要請が来ている。次に②県内各地域（計 3 回実施）で行った「対話型授業」コミュニティ作りの研修会からは事業内でできた人的繋がりを活かした「愛媛みるみるの会（仮称）」という教員中心の緩やかな集まりが誕生し、事業で得た知見を今後も学校・学校現場で活用し継続していく形が出来上がり始めているところである。更に③これら学校への今後の「対話型授業」の普及・コミュニティ作りに欠かせないのが今回作成したテキストと④対話型授業の核を成す「問いかけ」についての比較調査である。これらについては、県内全学校を中心に配布を行うとともに、説明会等の場を設け「対話型授業」の普及を図っていききたい。最後に、今回の事業の普及により新年度から毎夏、継続的に愛媛県総合教育センターにて、県内中堅教員を対象とした「対話型授業研修」（一日）の実施が決まった。講師は愛媛県美術館職員と本実行委員会の委員であった小学校教員の協働での実施である。</p>
------------------------	---

【事業実績】

①美術館・博物館で開発された「対話型授業」の県内小中学校出前授業

愛媛県美術館・県歴史文化博物館・県総合科学博物館で開発した「対話型授業」を計 34 授業実施した。特に民俗資料を扱った授業を参観した小学校の先生方から、子どもが主体的になることや「この手法は美術以外でも使えますね」等、31 年度に美術館・博物館協働して授業研究を行っていききたいという要請が多数あがった。



②東・中・南予の、県内 3 地域での「対話型授業コミュニティ」作り

愛媛県内 3 地域での教員を対象とした「対話型授業」の実践と次年度以降も主体的に授業を実践・継続していくための「コミュニティ作り」のための指導者研修会を開催した。参加した教員の方々からは「私達は子どもたちに話し過ぎだったんですねえ・・・」等の声がかかれ、皆、対話型授業の現場での実践に意欲を燃やされていた。



③「対話型授業」実践テキスト

愛媛県内の小中学校・博物館で開発され、現場教員の声を反映した 10 の対話型授業事例をより具体的に紹介するテキストを作成した。送付した学校・博物館等からは、「具体的に例があがっているため取り組みやすい」との声があがっている。※本テキストは美術館ホームページでも PDF ファイルにて掲載予定。



④「対話型授業」に掛かる「問いかけ」の比較分析・効果調査

「対話型授業」の肝となる「どこからそう思う？」という質問とそれによく似た「どうしてそう思う？」の質問を学校現場にて比較調査を行い、結果、「どこからそう思う？」の方が子どもが発言の根拠に早く辿り着けるため、教員にとっても授業運営がスムーズになり易いという結果が得られた。

